

# UAEL

URBAN AMENITY ENGINEERING lab.

No. 3  
2010.5

## 都市アメニティの輪を広げる ニュースレター第3号



巻頭言

2

‘09 学外活動

3

‘09 修士・卒業論文、卒業設計

4

5

修了・卒業生からのメッセージ

6

学科ニュース

7

情報かわら版

8

# 巻頭言



四年生の卒業研究への取り組みに先立ち、研究とは何か、どう研究を進めるのか、どのように論文を書くのか、と言ったことを伝えることになる。インターネットで検索すると、津々浦々の大学教員が、上記の指導を行うためのスライドや資料を整理しているのが分かる。しかし、実際の現場では実状が異なるかも知れないが、ほとんどの資料は「研究そのもの」についての指導に留まっているように感じる。

研究が成り立っていなければ卒業できないので、研究そのものを教えることに代わりはない。しかし、誤解を恐れずあえて言えば、より本質的に大切なのは、研究のスキルを身に着ける過程で身につく能力の方である。それは大きく分けて「問題解決力」「コミュニケーション力」「人間力」の3種類となる。言い換えれば、卒業研究に取り組む1年間は、この3つの能力を飛躍的に向上させる機会となる。

問題解決力とは、問題を見つけ出し、与えられた環境を活かし、解決する能力である。4年生には、それまでの人生では全くと言ってよいほど、未経験の人たちが多く、解決に至る道筋は常に与えられてきたからである。よって学生たちは、これ以上ないと感じる苦しみを体験する。もちろん、社会に出れば、あんなもの苦勞のうちでは無かったと分かるが、先輩たちから何を聞かされても、4年生の時点では人生最大の試練に変わりはない。

コミュニケーション力と人間力については、私の場合、教えるだけでなく、自分自身も成長の過程にあるという自覚である。コミュニケーションで特に重要なのは、自分と他者は違うということである。聖徳太子が言ったように、自分が聖人で相手が愚者ということは絶対はない。これは、師弟関係においても例外ではない。もちろん、学生だってつけ上がっては論外である。学生たちが卒業までに自責意識を持つ自律行動型の人間に成長する卒研指導ができること。それは私自身の成長の目標でもある。

浅野 耕一 【計画学講座・都市アミニティ工学分野】

都市アミニティ分野の研究室で活動を始めて、4回目の春を迎えています。研究、教育、学外活動とも、周回軌道に無事入ったと言えるでしょう。

さて2010年度、私の研究はダブルトラックで進めようと考えています。一つは、地方都市における機能悪化の都市計画的な原因である土地利用に係る研究です。これは初年度から進めているもので、昨年度は過去2カ年の研究成果を秋田市や潟上市の計画策定という現場に反映させる活動が中心でした。また専門図書の公刊に執筆分担という形で成果の一部をまとめました。この研究の再開です。もう一つは、昨年度から「人口減少時代における『市民まちづくり事業』の経済的価値の評価」と題して進めている研究です。地方都市の問題は都市計画だけではとても解決することはできません。市民まちづくり事業を疲弊した地方都市を救う原動力の一つと捉え、如何に地域政策に位置づけるか？の研究となるでしょう。教育に関し、ゼミ生指導には「自主性の尊重」をもってあたることとします。何も枠や基本的規範のない中で自主性と言われても、初めての研究及び研究室活動には戸惑や方向違いということが発生するでしょう。しかし、その枠組みはこの3年間で確立させました。であれば、その中で学生らしい生き生きとした活動を自ら創りだしていただきたいという期待です。逆に表現すれば、自分で気づいて、実践していくことを求める、という高度な要求です。

そしてもう一つの期待は、8月になれば私の講義「都市計画概論」を受講した学生が研究室に入ってくるということです。この講義では、都市計画の基礎を一通りかつ体系的に解説してきました。配属されるだろう学生たちは、難易度を高めに設定した期末試験を無事通過してきた者です。どんな研究テーマに興味を持ってくれるか楽しみであり、また学生との議論の可能性が拡大していくものと期待しています。研究室の雰囲気も、きっと変わっていくことでしょう。

山口 邦雄 【計画学講座・都市アミニティ工学分野】



早いもので県立大に着任してから半年が経ちました。ようやく生活も落ち着き、春から新たな研究に着手しようと考えております。これまで、名古屋をはじめとする大都市圏の人口動態や土地利用に関する都市解析・研究を行ってきましたので、これから秋田および東北地方を取り巻く都市・地域問題をテーマとした研究に着手するにあたり、人口減少時代、地方都市、過疎化、高齢化、限界集落など、取り組むべき研究テーマや課題は山ほどあると考えております。

幸い、今年度は文部科学省の科学研究費に「地方都市郊外住宅団地のソーシャルキャピタル形成と人口維持との構造分析に関する研究」が採択され、研究に必要な資料や機材を準備することができそうです。この研究は、これまでの自身の研究の中で、人口減少時代を迎える今日において、人口が増加・維持している郊外住宅団地の特徴として、「公共施設や交通の便や良い」といった地理的・物理的な要因以外に、地域の評判が良い、地域活動や近所づきあいが活発であるといった「暮らしやすさ」のような社会的な要因も寄与しているということが分かってきたのですが、これを発展させたものです。新たな投資や開発が難しい時代ですので、物理的な要因の改善は望めなくても、地域住民による取り組みで社会的な要因の改善は可能であると考えています。ちなみに、このような地域住民同士の関係構造は、近年、ソーシャル・キャピタル（社会関係資本）と呼ばれ、社会学、経済学や環境学など、様々な分野で研究が進められています。

そこで今年度は、まず手始めに東北地方で人口が維持している郊外住宅団地、反対に減少している団地を洗い出すため、人口動態の解析に着手したいと考えています。日本の総人口が今後減少している中で、①どのようなエリアで人口や世帯の増加・減少が起こっているか、②総じてどのようなパターンがあるか（例えば、人口増加期における郊外化、ドーナツ化のような典型はあるか？）といったことを明らかにしたいと考えております。調査対象となるエリアや郊外住宅団地を絞り込むことで、研究の本題である「暮らしやすさ」の定量把握が可能となると考えています。

小川 宏樹 【計画学講座・都市アミニティ工学分野】

# 都市アメニティシンポジウム 研究発表展（卒業修了展）

2010年2月26日から28日の3日間、都市アメニティ研究室の第2回目の卒業・修了展が秋田市民交流プラザ「アルヴェ」のきらめき広場で行われました。卒業設計2点、卒業論文ポスター5点、修士論文ポスター1点、学外活動ポスター1点などが展示されました。また2010年2月23日に同じくアルヴェでGIS学会主催の都市アメニティシンポジウムが行われました。シンポジウムでは京都大学の畑山満則准教授、株式会社アチカの榎尾寛取締役、大阪産業大学の吉川耕司教授を招き、講演して頂きました。20名弱の方に参加して頂き、公演を通し有意義な意見交換を行うことができました。今回の卒業・修了展では都市アメニティシンポジウムでの発表内容のポスター展示を併設して開催されました。

卒業・修了展開催にあたり、前年度同様に本研究室の3年生がポスター作成から展示まで頑張ってくれていました。前回の経験が準備、模型の搬入作業、展示作業に活かされ、前年度よりスムーズに行っていました。また、開催初日に実際に会場設営して気がついた点を学生が即時に修正するなど、より多くの方に興味を持って来場して頂くために努力していました。

卒業・修了展には高校生、他大学の学生が多く来場してくれました。また、一般の方も通りがりに興味を持って頂いた方も多く、今回の卒業・修了展の開催も有意義なものになりました。やはり卒業設計の模型に興味を持つ方が多く、学生や建築関係の職業に就いている方以外にも子供からご年配の方まで足を止めて見てくれていました。私は前年度から卒業・修了展に参加していますが、卒業・修了展は本研究室の研究内容を一般の方に知って頂く非常に良い機会だと感じています。やはり来場された方はよく研究内容を知らない方がほとんどでした。しかし、研究ポスター・模型をただ見るだけでなく、本研究室の学生と会話することでより良く研究内容を知ってもらえたと感じました。また、学生側も一般の方と話す機会は学生生活の中では少ないので良い機会になったと思います。今後も卒業・修了展を開催していき、より多くの方に本研究室の活動内容を知って頂けるよう努力していきたいです。本ニュースレターをご覧の方もお時間がございましたら次回の卒業・修了展にご来場頂ければと思います。

高山 あずさ【プロジェクト研究員】



# 旭町防災講座



3月22日に旭町で行われた防災講座に4年の小玉彩子さんと参加してきました。この講座は、旭町自主防災委員会が地域住民の方の防災意識を高めるために開かれました。私たちは、この講座で旭町自主防災委員会が作成した旭町防災意識等に関する住民アンケート調査の集計結果を発表させて頂きました。私たちが会場に到着したころには、会場は多くの方がいらっしやり、地域での活動に関心を持つ人が多いと感じました。

防災講座では、防災研修として「新潟中越地震災害派遣」のビデオを見たり、火災報知器の設置についてや大地震時の心得について住民の方と一緒に聞きました。どの方も真剣に聞き入っていて、火災報知器の設置では、実演を交えた身近な話のためか質問も多くでました。私自身も大学の講義やゼミ等での知識だったので、知らなかった話も多く、火災報知器の話などはとてもためになりました。

私たちの発表は、作成されたアンケートの集計から住民の方の防災意識の傾向について話すというものでした。アンケートの質問項目から内容を世帯、不安要素、防災対策、要望、参加協力の把握に分け各傾向を発表しました。自由記述には様々な意見がありましたが、中でも高齢で参加や

協力が難しいという記述が多く寄せられていることを発表しました。

アンケートから、市街地に住む人にも年齢にばらつきがあり、体力の不安を抱える方が比較的多く、地域での協力はとても重要なことと再確認しました。

平日にも関わらず、多くの方が会場にいらっしやったことと地域の方の前で話す機会ははじめてだったため、発表はとても緊張しました。しかし、どの方も真剣に話に耳を傾けて下さり、さまざまな指摘もいただくことができよかったです。

防災講座での発表をさせて頂きましたが、私自身も防災について勉強する良い機会になりました。今回の意識傾向の把握が災害発生時・避難後についてのアンケート調査にもお役にたてればと思います。

立花 葵【修士課程1年】



小田島慶昌、数々の優秀な卒業設計を押さえ

秋田建築卒業設計コンクール特別賞受賞！！

**修士論文**

高山 あずさ 「自治体 GIS を用いた戸建住宅の LCCO<sub>2</sub> 評価による低炭素社会へのロードマップ  
作成支援に関する研究」

**卒業論文**

佐藤 祐衣 「時空間地理情報システムを用いた自治体業務における平常時と災害時の連続性に関する研究」

土田 健太郎 「景観法制定を契機とする自家用広告物のコントロールの変化に関する研究  
—景観計画と屋外広告物条例の連動に着目して—

中島 祥崇 「東北地方における「まちづくりNPO」の活動実態と事例に基づく有益性の一考察  
—定款・アンケート調査と特定詳細調査と通して—

福田 恭史 「木造戸建住宅の L C A における自治体情報の利用と補完に関する研究」

藤原 克彰 「歩行者空間において私的利用に影響を及ぼすデザインの研究  
—商業地のセットバック空間を対象として—

ここで、卒業論文を代表して土田健太郎さんの論文を紹介します。

景観法制定を契機とする自家用広告物のコントロールの変化に関する研究

—景観計画と屋外広告物条例の連動に着目して— (抜粋)

B08C027 土田健太郎

・研究の意図と目的

良好な景観に対する関心の高まりを受け、2004年に景観法が制定された。それに応じて屋外広告物法が一部改正された。屋外広告物は原則として、許可の基準を満たし、許可を受けることで表示できる。ただし例外があり、自家用広告物、公共広告、案内板など特定の広告物に限り、適用除外の基準を満たすことで、許可を受けずに表示することができる。その中でも、自家用広告物は屋外広告物全体としての割合が高く、その扱いは景観形成に大きな影響を与えている。(写真1、写真2参照)そのため、より良い景観を創造していくために自家用広告物のコントロールの実態を把握することが、景観形成上重要な課題の一つとなっている。以上のことから、本研究では景観法制定を契機とする自家用広告物のコントロールの変化と課題を景観計画との連動の側面から明らかにすることを目的とする。



写真1



写真2

表1 選択項目⑤における自家用広告物等の記載状況

	⑤屋外広告物に関する事項(選択項目)								
	景観計画区域				景観形成重点区域				
	区域全体		細分区域		地区全体		細分地区		
	方針	基準	方針	基準	方針	基準	方針	基準	
仙台市	×	○定性	×	×	×	×	×	×	●定性
新潟市	○	×	×	×	×	×	×	×	×
青森市	○	○定性	×	×	×	×	×	×	×
宇都宮市	○	×	×	×	×	×	●定量	×	●定量
金沢市	○	●定量	×	×	×	×	●定量	×	×

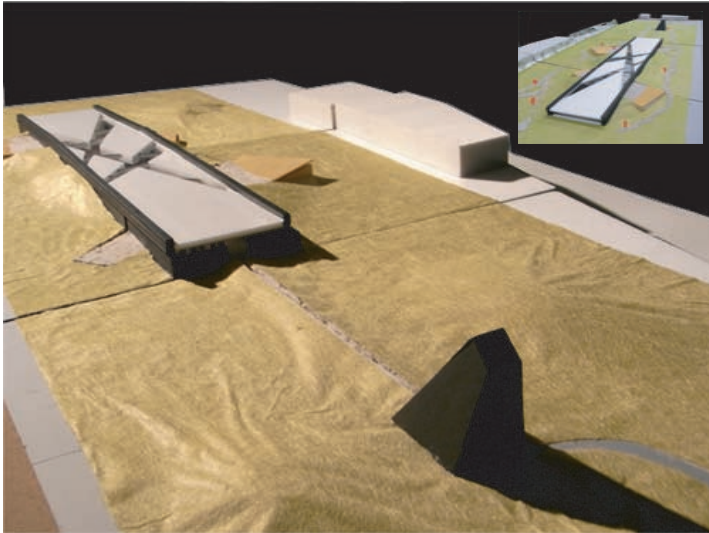
×:記載なし ○:屋外広告物一般の記載 ●:自家用広告物に関する記載

・まとめ

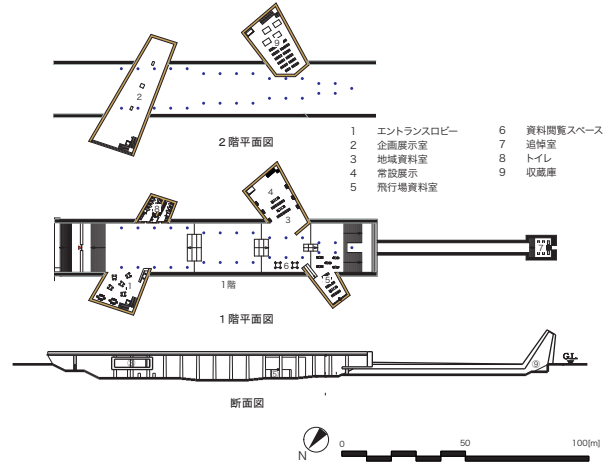
本研究は、旧制度で例外を除き大部分の都市で行われていた一律的で基準の緩い自家用広告物のコントロールが、景観法制定を契機として地域・地区特性に応じたきめ細かで厳格なコントロールへと変化したことを先進5事例から実証的に明らかにしたものである。その変化とは、景観法制定を契機として、景観計画に地域・地区の特性に応じた自家用広告物のコントロールの基準を記載し、それを反映させた屋外広告物条例によって法的根拠をもたせることにより、よりの確な自家用広告物のコントロール方策を獲得したという変化である。そして、この変化の解明は、これまで課題となっていた自家用広告物の景観対策に有益な示唆を与えるものである。今後の課題は、適用除外の基準を強化する方向で見直し、コントロールの範囲を広げることである。

卒業設計

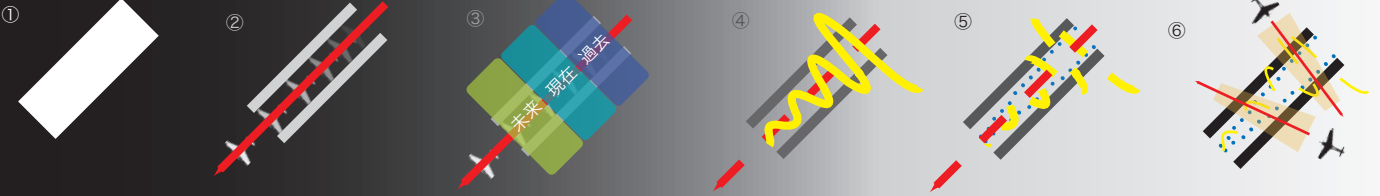
小田島 慶昌 「沈黙の呼吸」



"過去" の出来事の死を追悼する場  
 "現実" における戦争の記憶に向き合うための場  
 "未来" の平和を願う場  
 を提案する。



3. 全体計画



立花 葵 「tojiki の軌跡たち」

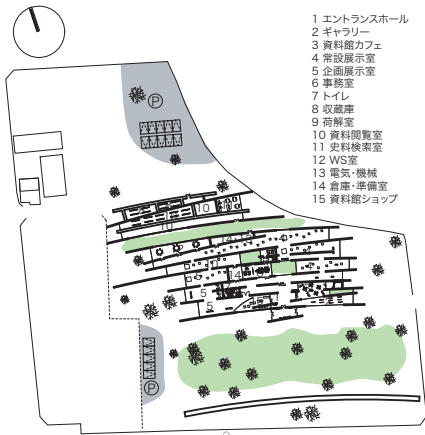
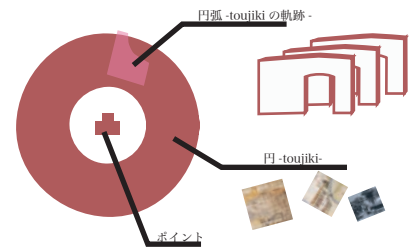


図7 平面図及び配置図

本計画では、壁の間を歩くことをコンセプトとした。様々な壁の間を歩くことによって、史料と街とのつながりを意識してもらうためである。

壁は、本荘地域の歴史と関わりの深い本荘公園(本荘城跡)を中心に、敷地内まで円を引いて、壁の形とした。円の中心は、敷地内に円弧が残ることで円の中心が意識され、街との関わりに気づききっかけとなることを目指した。



# 先輩から後輩へ……

## 一言もの申す！！



### 佐藤 祐衣

都市アメで過ごす1年半は本当にかけがえの無い時間です。今年度から新たな行事(?)である「月9」が始まって、皆そろって一週間を迎えることになりました。私たちの代では、まだ全員そろって朝の月9を迎えたことがありません。次の代では月9の真意である皆そろって一週間を始めることを実行できるように頑張ってください。朝が苦手という方も多いと思いますが、だんだん慣れてきます。

今年はキャンパスの中庭でピクニックをしました。他の学生には不審がられるかもしれませんが、楽しんだもの勝ちなので大いに楽しんでいました。皆さんも他の研究室では出来ないようなイベントを実行してみてください。思い出になって絶対楽しいですよ。

研究室の皆が「都市アメで良かった！」と言えるような研究室目指して頑張ってください。都市アメOGとして応援しています!!



### 小田島 慶昌

大学4年の時間はあっという間に過ぎていきます。講義もないため、自ら動かなければ貴重な時間は過ぎていくだけに終わってしまいます。就職活動と研究の同時進行は正直言って目が回ります。

しかし、どちらも自分の人生を決めるターニングポイントです。まずは就職活動に専念し、決まり次第、研究・設計に専念するといったメリハリをつけましょう。

体調管理は何よりも大切です。私は車も持っていなかったため、研究室に着替え・食料・寝床を常備し、寝泊まりしていました。(最長1週間) 大学生活をしていた身から一言。正直、やめた方がいいです。病みます。帰れるときは帰ってしっかり休みましょう。

研究・設計だけが4年生ではありません。休むときはしっかり休む。遊ぶ時にはちゃっかり遊ぶ。ON/OFFをしっかりとすると研究もはかどります。

最後に、都市アメは合宿や月9など何かとイベントがあります。それらを通して先生・先輩・同期・後輩に本当に良くしてもらいました。皆に巡り会えた私は幸せ者です。

皆さんもお互いに励まし合い、切磋琢磨しながら高め合えるいい関係を築いて下さい。



### 立花 葵

自分だけの時間を大切にしてください。みんなと話をすると楽しいし、雑談でヒントが見つかったりすることもあります。でも、調子の良くないときも、気分が落ち込んでいるときも毎日みんな顔を合わせて話すのは、実際のところ大変だと思います。そういうときは、家に帰ってゆっくりすることをおすすめします。人といるよりも落ち着くかもしれません。

都市アメのみなさんと4年生を過ごすことができ、とてもよかったなと感じています。今年の4年生も卒業の時によかったなと感じられるように祈っております。



### 土田 健太郎

他の人の研究にも関心を持ち、お互いの研究について議論を交わすことが重要だと思います。自分の研究に没頭していると自分の研究を客観的に捉えることが難しくなります。また、そういった状態

で問題に直面すると解決策を見出すのにかなりの時間を使う場合があります。できるだけ避けるために、他の人と研究について意見を交わし、客観的な視点を取り入れることが重要です。

実際、話している中で新しいアイデアや問題の解決策を閃いたりすることが何度かありました。

また、都市アメでは、議論を交わし情報を共有する時間として、全体ゼミ・月9があります。これらは、先生方も交えて議論できる貴重な時間です。お互い積極的に意見を出し合い時間を有意義に使うべきだと思います。



### 中島 祥崇

4年生になると授業はほとんどなく、研究のみの生活になります。そのため、生活習慣が乱れがちになることもあるかと思います。

しかし、生活が乱れると、研究にも悪影響があります。自分の中での生活のリズムを決め、メリハリをつけた生活を送ること。研究以前の問題ですが、研究に真剣に取り組む環境を自ら作り上げていくことも、この1年間の研究活動の中で重要だと感じました。大学生は私生活と研究活動との境目が曖昧になりがちではないかと思います。公私のメリハリをつけ、研究に取り組んでみてください。

### 藤原 克彰

- ・ 研究を楽しむ
- ・ 本気になる
- ・ 何とかなるだろうという気持ちは早めに捨てる
- ・ 休むときは思い切って休む
- ・ 遊ぶときは遊ぶ

- ・ まずは「行動」してみる
- ・ 早めの調査・事前準備
- ・ 2歩遅れないためのスケジュール

- ・ デスクをきれいに保つ
- ・ 大学生活最後の1年を楽しむ
- ・ 常にポジティブで

おそらく今までの人生で一番大変な1年だと思いますが、その分一番成長できる1年だだと思います。その大変さも楽しみ、大学生活最後の1年を悔いの残らないよう過ごしてください。



### 福田 恭史

4年生になると授業もなく完全に自分で生活のリズムを作ることになりました。幸運なことに今年度から始まった月9があります。このイベントを活用して規則正しい生活を送れるように心掛けましょう。

また、友達との付き合いも大切です。研究室配属によりバラバラになった今だからこそ、自分から連絡を取り、今まで以上に一緒に過ごす時間を作りましょう。私のように毎日全部の研究室に行くのはお勧め出来ませんが、息抜きがてら他の研究室に行くのもいい気分転換になります。また、他の研究室の先輩方と仲良くなるチャンスでもあります。

都市アメは外に向かって行く研究室です。日々の生活から外に出て色々な人と話し、新しいネットワークの構築に努めましょう。はじめは慣れないことばかりで不安だと思いますが、物怖じせず、ガンガン攻めて行きましょう。

楽しく元気に仲良く行きましょうφ(`▽´)φ

# 学科ニュース 2010.04 今年度は新たに2名の先生をお迎えしました。

## 建築・都市アメニティグループ 苅谷 哲朗 (かりや てつろう) 教授

東京の出身で、53歳にして新天地 秋田にやって参りました。学部学生時代は、東京大学建築計画研究室で人間が居る事だけでその人の周辺に出来る上がるパーソナルスペースの研究をしていました。大学院修士課程では、人の住む部屋や住まいや集落が周囲の空間におよぼす興味から、当時日本で初めて世界の建築家なしの集落を水平的に調査研究していた生産技術研究所の原広司研究室に進みました。その経緯で、約150箇所日本の伝統的街並を水平的に調査研究し、街並が生み出すリズム感が言わば建築の言語になっていることを門内輝行助手のもとで研究いたしました。



その後、建築家志望の夢を達成するために、国立代々木競技場の設計で有名な世界的建築家 丹下健三先生の門をたたき、大学設計の海外プロジェクトで、初めて飛行機にのって降り立ったのが中東のサウジアラビアでした。その後、パリのイタリヤ広場の都市デザインと建築の設計でのべ2年間にわたりパリで生活することになり、建築や街並や都市が美しい事が機能性に障害を与えることはないことを身を以て体験することになりました。その間、東京都新庁舎の設計コンペへの参加や部分デザインの設計、ナポリ新都心計画や、パリ・セーヌ左岸計画の都市デザイン、ローマ新都心計画の都市計画など、人々の夢を形にする都市や建築の計画に携わる機会を得ました。

そして、丹下健三・都市・建築設計研究所の取締役設計担当を経て、東京大学建築計画研究室の博士課程に戻り、建築計画学の環境心理学部門と建築意匠部門を融合する境界領域の提案で学位をとる一方、自身の建築設計事務所 空間・計画研究所で、身の丈の建築設計を経験してまいりました。また、中東のカタール・ナショナル・マスター・プランにはシニア・アーバン・デザイナーとして参画し、カタール人の原風景を再現する計画を提案したりしました。

さて、こうした住宅から都市の設計までの経験を生かしつつ、秋田県立大学に着任することになり、学生達に、様々な建築や都市の計画・デザインの経験を伝授することをミッションとすることになりましたが、大学のある由利本荘市や秋田県の今後のまちづくりや介護・医療・福祉・厚生・環境・情報・農業・経済政策に包括的に貢献する研究・計画・都市デザインを、都市アメ研のスタッフや学生達とともに、多くの市民にとってわかりやすい形で具体的に見せ、将来に夢を抱かせるような、研究・マスタープラン・モデルを提案することが、今後の抱負であり、課題と考えております。

## 環境計画学グループ 細淵 勇人 (ほそぶち はやと) 助教



東京都立大・京都大学大学院の建築環境・設備の研究室で、建築熱環境シミュレーションに用いる気象モデルの開発について研究を行ってきました。関東・関西と、東北にはこれまで縁がありませんでしたが、新しい土地で、新たな気持ちで研究、そして教育・地域貢献に邁進して行きたいと考えています。

さて、本誌は「都市アメ」のニュースレターとのことですので、読者の方々には、「気象モデル」・「建築熱環境シミュレーション」の研究といっても想像がつかないかと思います。なんとか一言で言いますと、『快適な建築(温)熱環境を設計するために行う熱環境予測計算に用いる、現実の気象情報(日射量など)のモデル(数式)化と、それを用いた熱環境予測計算手法に関する研究』

ということになります。

ある恩師の自虐の言葉によれば「結局のところ、工学のモデル化なんて近似」とのことですが、建築熱環境予測計算の際には、複雑なため、そのままでは利用できない「現実の環境(気象情報)」を、より精度良く「近似」し、一般化(モデル化)することがどうしても必要とされます。しかし、忘れてはいけないのは、「現実の環境 ≠ 精度の良い近似」ということです。n次式や指数・対数関数、なんでもいいのですが、そういった数式で表せたものを「現実の環境」と勘違いして、「現実の環境」を見失ってしまうことがあります。これは自戒を込めて書きますが、どんなに高精度の近似であったとしても、それは決して「現実の環境」ではないことを忘れてはいけないと考えています。

これまで生活した関東、関西、アメリカ、そして生活を始めた東北・秋田と、一口に住宅・建築といっても、文化的な側面や、その気候風土により、形態はもちろん、環境設備面でも大いに「差異」があります。もっとも建築を楽しむという観点ではその「差異」に面白さを見出すのかもしれませんが、「モデル化＝一般化する」という観点では、その「差異(地域特性)」を削り落とすことなく、どのように「近似」するのが重要であり、必要とされます。

秋田という新しい土地で、「現実の環境(気象情報)」・「現実の建物」を見失うことなく、(秋田の)「差異」にも目を向け、それを楽しみながら、「近似」を行ってゆきたいと考えています。どうぞよろしくお願い致します。

## 都市アメ研のホームページがリニューアルしました

ホームページのデザインをリニューアルし、新たに教員や日々の研究室の様子などを紹介するブログを設置しました。

<http://www.akita-pu.ac.jp/system/aes/amenity/>





第3回の報告者は  
5期生 吉田幸太さん

みなさん、こんにちは。都市アメOB5期生の吉田幸太です。今回、このような場をお借りしてみなさんにメッセージを配信でき大変嬉しく思います。

私が大学を離れたのはまだ1年くらい前ですが、懐かしく思います。都市アメでは大学、大学院と3年間という長い時間過ごさせて頂きました。都市アメは他のグループと違いアットホームなところがあり、私達も熱帯魚飼ったり、1週間以上寝泊まりしたり、臭い研究室と噂になったのもいい思い出です。

私は現在東京でハウスメーカーに勤めています。職種は設計ですので毎日CAD漬けです。ハウスメーカーに勤めてはいますが、部署が店舗系の設計が中心なのでコンビニやドラッグストア、スーパーや老人ホームなどの設計をしています。戸建てやマンションと違い不特定多数の方が使い、自分も活用する建物を設計するのはやりがいがあります。

私が約1年働いて思ったことは2つあります。

1つは大学でできなかったことは社会人になっても難しいということです。私は大学時代決められた時間内に課題を終わらせるのが苦手でした。その点では先生方には大変ご迷惑をかけました。大学は24時間使用でき、自分の都合で研究を進められ徹夜もできました。しかし、会社は決められた時間内に終わらせ帰らなくてははいけません。残業したくてもできない時もあります。時間を決めて時間内に終わらせる癖を学生内につけておくことが大事だと思います。

2つ目は大学の友達はとても大切だということです。会社に入ると同僚や先輩と出会います。良い出会いも沢山あります。しかし、あくまで仕事の延長線の付き合いが多い気がします。どうしようもない馬鹿話や仕事の愚痴等を話しやすいのは大学の友達や地元の友達だったりします。つながりは大事にして下さい。私も先日、大学の同級生や後輩の方々と会うことができました。こういったニュースレターや後輩と会うことで大学の状況を知ることができ嬉しく思います。

同級生や後輩、先輩の方々も頑張っていると思います。私もなんとか頑張っておりますので、現役の研究室の方々も先生方に良い刺激を与えられるように頑張ってください。

OB・OGの皆様へ

都市アメからのお願いです。ぜひぜひ、OB・OGのコメントにご協力お願いします。連絡は下記(小川)まで。山口先生が昨年度に引き続き、就職委員となりました。OB・OGの皆さん、就職ガイダンスで「先輩に聞く就職活動と企業状況」という企画がありますので、来校可能な方は是非ご協力下さい。

UAEL 編集部  
〒015-0055  
秋田県由利本荘市土谷字海老ノ口84-4  
秋田県立大学システム科学技術学部建築環境システム学科  
電話：0184-27-2061 mail: wogawa@akita-pu.ac.jp  
担当 小川 宏樹

イベント計画表

'10.4 - '10.9

- 4月 ・ 入学式
- 5月 ・ 本紙発行  
・ 建築・都市アメニティグループ合同ゼミ  
・ 苅谷教授歓迎会
- 6月 ・ 19~20日 建築学会東北支部(山形)  
(今年度は5編の研究発表を予定)
- 7月 ・ 17日 夏のオープンキャンパス
- 8月 ・ 2、3日 建築学研修発表会  
・ 三年生研究室配属
- 9月 ・ 夏合宿(夏期集中研究)  
・ 9~11日 建築学会全国大会(富山)  
(今年度は6編の研究発表を予定)

編集後記

2010年度一発目は、本荘公園のチューリップを表紙に新期・都市アメNLのスタートを切らせていただきました。最初はillustratorの使い方もわからないわたしたちでしたが、徐々に手慣れてきてそれぞれのこだわりを盛り込めるようちょっとずつ成長してきているようです。

初代編集長・恭史さんの言葉をお借りしますが、都市アメは外に向かって行く研究室です。なので、研究室から外へ発信したNLを通して、都市アメ研関係者の皆様が都市アメネットワークの強いつながりを再度噛み締めていただけるきっかけになれば、わたしたちNL編集部一同も大変うれしく思います。

(編集長 菅原 功子)

2010.04.30 NL編集部  
菅原 功子 加藤 辰彦 金子 佑 小川 宏樹